

令和4年度行政事業レビューシート (文部科学省)

事業名	環境分野の研究開発の推進			担当部局庁	研究開発局	作成責任者	
事業開始年度	平成23年度	事業終了(予定)年度	終了予定なし	担当課室	環境エネルギー課	環境エネルギー課長 轟 渉	
会計区分	一般会計						
根拠法令 (具体的な条項も記載)				関係する計画、通知等	第6期科学技術・イノベーション基本計画(令和3年3月閣議決定) 気候変動適応計画(令和3年10月閣議決定) 地球温暖化対策計画(令和3年10月閣議決定) 海洋基本計画(平成30年5月閣議決定) 統合イノベーション戦略2021(令和3年6月閣議決定) パリ協定に基づく成長戦略としての長期戦略(令和3年10月閣議決定) 革新的環境イノベーション戦略(令和2年1月統合イノベーション戦略推進会議決定)		
主要政策・施策	科学技術・イノベーション			主要経費	文教及び科学振興		
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	地球環境科学技術に関する各国の研究成果、活動との情報交換を行い、文部科学省における環境分野の研究開発を効果的かつ円滑に推進するとともに、日本学術会議の提言(平成26年第199回幹事会)を踏まえ、研究者コミュニティ以外の政策・行政担当者、経済界、各種NGO/NPOなどのステークホルダーとの協働(超学際的:trans-disciplinary)を通じて、地域から地球全体の環境保全と持続可能性を追求する国際協同研究計画を推進する。						
事業概要 (5行程度以内。別添可)	気候変動等の地球環境問題等に関する科学的知見の充実に資するため、地球環境科学技術を効率的かつ円滑に推進する観点から地球環境研究開発推進に関する国際会議等に参加し、研究成果等の情報交換、他国との間で討議等を行う。また、地球環境国際協同研究計画事務局(フューチャー・アース本部事務局)への拠出金を通じて、研究内容や国際協力の調整等を行いながら、国際協同研究計画を進める。						
実施方法	直接実施						
予算額・執行額 (単位:百万円)			令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度要求
	予算 の 状 況	当初予算	36	26	26	36	26
		補正予算	-	-	-	-	-
		前年度から繰越し	-	10	-	-	-
		翌年度へ繰越し	▲ 10	-	-	-	-
		予備費等	2	-	-	-	-
		計	28	36	26	36	26
	執行額		28	27	18		
	執行率(%)		100%	75%	69%		
	当初予算+補正予算に対する執行額の割合(%)		78%	104%	69%		
令和4・5年度 予算内訳 (単位:百万円)	歳出予算目	令和4年度当初予算	令和5年度要求	主な増減理由			
	庁費	8	8	隔年実施の会議開催経費の減			
	地球環境国際協同研究計画拠出金	8	8				
	職員旅費	6	6				
	委員等旅費	3	2				
	その他	1	2				
	地球環境行動会議開催業務庁費	10	0				
	計	36	26				

活動内容 (アクティビティ)		国連気候変動枠組条約 (UNFCCC)、気候変動に関する政府間パネル (IPCC) 等の地球環境研究開発推進に関する国際会議等に参加するとともに、地球環境国際協同研究計画事務局への拠出金の支出により、自然科学・人文科学・社会科学が強く連携し、社会のステークホルダーと協同して研究テーマの選定・計画立案から研究の実施、研究成果の社会実装までを行うトランスディシプリナリー研究を支援する。								
活動目標及び活動実績 (アウトプット)	活動目標	活動指標		単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	4年度活動見込	5年度活動見込	
	地球環境研究開発推進に関する国際会議等への参加を通じて、環境分野の研究開発の効率的かつ円滑な推進を目指す。	地球環境研究開発推進に関する国際会議等への参加(回) ※COVID-19の影響を受け、令和2.3年度はオンライン開催の会議も計上。	活動実績	回	16	13	16	-	-	
			当初見込み	回	14	12	14	17	-	
単位当たりコスト	算出根拠			単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	4年度活動見込		
	地球環境研究開発推進に関する国際会議等への出席(執行額(旅費等)/出席回数(回)) ※COVID-19の影響を受け、すべての会議がオンライン開催されたため令和2年度は算出不可。また、令和3年度は大多数がオンラインで開催されたため参考値。	単位当たりコスト		千円/回	652	-	86	519		
		計算式		千円/回	10429/16	-	1376/16	8821/17		
成果目標及び成果実績 (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標		単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	中間目標 4年度	目標最終年度 -年度	
	地球環境国際協同研究計画による地球システムを制御する物理的、化学的、生物学的相互作用の諸過程の研究に関するプロジェクトが維持され、研究が推進されることにより、年間500本の論文が輩出される。	地球環境国際協同研究計画に関する代表的な論文数(本) ※年次報告書等において取りまとめられたデータ ※令和3年度の成果実績については、現在集計中(令和4年秋頃完了見込み)	成果実績	本	376	985	-	-	-	
			目標値	本	500	500	500	500	-	
			達成度	%	75.2	197	-	-	-	
根拠として用いた統計・データ名 (出典)	文部科学省調べ等									
定量的な成果目標の設定 事業の妥当性を検証するための代替的な達成目標及び実績	代替目標	代替指標		単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	中間目標 -年度	目標最終年度 -年度	
	-	(参考指標) 地球環境国際協同研究計画事務局の職員数に占める日本人職員数(人)	実績	人	2	2	6	-	-	
			目標値	人	-	-	-	-	-	
			達成度	%	-	-	-	-	-	
成果目標及び成果実績(アウトカム)欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙1】に記載								チェック		
政策評価、新経済・財政再生計画との関係	政策評価	政策	9 未来社会に向けた価値創出の取組と経済・社会的活動への対応							
		施策	9-2 環境・エネルギーに関する課題への対応	政策評価書 URL	https://www.mext.go.jp/content/20211220-mxt_kanseisk02-000019646_9-2.pdf					
	新経済・財政再生計画改革工程表 2021	取組事項	分野:	-						
			(新経済・財政再生計画改革工程表 2021) URL:	-						
			該当箇所	-						

事業所管部局による点検・改善

項目		評価	評価に関する説明
国費投入の必要性	事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。	○	本事業は、国際協力の調整等を行いながら、国民や社会に大きな影響を与える地球規模課題である気候変動等の対応のための国際共同研究計画を進めるものであり、ニーズを適切に反映している。
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。	○	本事業は、国際協力の調整等を行いながら、国際共同研究計画を進める地球環境国際共同研究計画事務局への拠出金の支出や他国との討議を行う国際会議等に参加するものであり、国が直接実施すべき優先度の高い事業である。
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。	○	本事業は、UNFCCCやIPCC等の地球環境研究開発推進に関する国際会議等への参加を通じて、環境分野の研究開発の効率的かつ円滑な推進を目指す事業であり、本事業は政策体系の中で優先度が高く政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業である。
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。	○	地球環境国際共同研究計画拠出金や国際会議等への参加に必要な旅費等の経費で構成されており、支出先は妥当である。
	一般競争契約、指名競争契約又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。	無	
	競争性のない随意契約となったものはないか。	無	
	受益者との負担関係は妥当であるか。	-	-
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。	○	会議開催や会議出席は必要かつ重要なものに精査しており、コストは妥当な水準である。
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	○	地球環境国際共同研究計画拠出金については、地球環境国際共同研究計画事務局に対する会計検査が行われており、適切な会計の執行を確認している。
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○	会議出席は必要かつ重要なものに限られており、費目・使途も目的に即し真に必要なものに限定されている。
	不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	○	COVID-19の影響により必要に応じて、国外会議にオンラインで参加したり、国内会議をオンライン開催したりするなど、旅費や庁費など予定通りの執行が行われなかった。
	繰越額が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-	-
その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。	○	地球環境研究開発推進に関する国際会議等への参加に必要な外国旅費の執行にあたっては、航空運賃の見積りを複数社から取得するなど従前よりコスト削減に努めている。令和3年度においては、COVID-19の影響により必要に応じて、国外会議にオンラインで参加したり、国内会議をオンライン開催したりするなど、結果的に旅費や庁費に関するコストの削減が行われた。	
事業の有効性	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。	○	地球環境国際共同研究計画が着実に推進されること、また、国際会議等の参加・開催を通じて、我が国の国際的なプレゼンスを示すとともに、有識者等の間の連携を一層強化し、我が国が一丸となった対策を進めることにより、環境分野の研究開発の推進に貢献している。
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	-	-
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	○	COVID-19の影響により、見込んでいた国外会議はオンライン開催となったが、参加はできているため、見込み通りの活動が行われている。
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	○	国際会議等への参加を通じて、我が国の国際的なプレゼンスを示すとともに、有識者等の間の連携を一層強化し、我が国が一丸となった対策を進めることにより、環境分野の研究開発の推進に貢献している。
関連事業	関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)	-	-
	事業番号	事業名	

点検・改善結果	点検結果	<ul style="list-style-type: none"> ・地球環境国際協同研究計画拠出金や国際会議等への参加に必要な旅費等の経費で構成されており、いずれも国が直接実施すべき優先度の高い事業。 ・また、令和3年度行政事業レビューでの指摘を踏まえ、コストの削減を行い必要な経費に限定し執行。 ・地球環境国際協同研究計画拠出金については、地球環境国際協同研究計画事務局に対する会計検査が行われており、適切な会計の執行を確認。
	改善の方向性	上記の点検結果を踏まえつつ、引き続き、本事業の目的を達成するため、予算を効果的かつ適切に執行していく。

外部有識者の所見

外部有識者による点検対象外

行政事業レビュー推進チームの所見

一部の改善	この事業は、昨年度に引き続きコロナ禍による旅費執行減により不用額が発生していること、またオンラインでの会議参加実績を踏まえ、会議参加のための旅費については真に必要なものに限り予算要求すべきである。特に、執行率が7割に満たないにも関わらず令和4年度予算が増額されているため、令和5年度は必要な分のみ予算要求をするよう留意すべきである。
-------	--

所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況

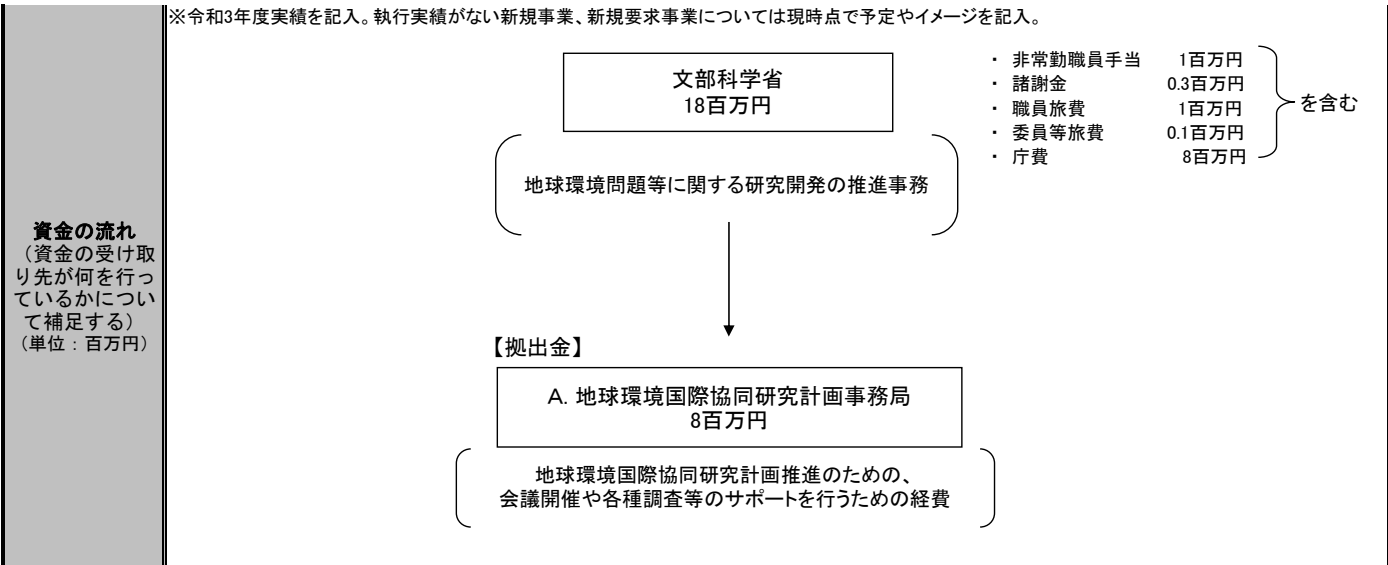
縮減	令和5年度の予算要求においては、これまでの執行実績を踏まえ委員等旅費に▲1.7百万円反映した。一方、非常勤職員手当の増をしており、概算要求額の総額には結果として影響していない。なお、隔年実施の会議開催経費分の当然減として▲10百万円となっている。
----	---

備考

関連する過去のレビューシートの事業番号

平成23年度	273			
平成24年度	292			
平成25年度	254			
平成26年度	253			
平成27年度	243			
平成28年度	236			
平成29年度	242			
平成30年度	241			
令和元年度	文部科学省 - 0235			
令和2年度	文部科学省 0237			
令和3年度	2021 文科 20 0259			

※令和3年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。



費目・使途 (「資金の流れ」においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と使途の双方で実情が分かるように記)	A. 地球環境国際共同研究計画事務局			B.		
	費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
地球環境国際共同研究計画拠出金	地球環境国際共同研究計画事務局の活動に資する経費		8			
計			8	計		0

支出先上位10者リスト

A.

1	支出先	法人番号	業務概要	支出額 (百万円)	契約方式等	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1	地球環境国際共同研究計画事務局	-	地球環境国際共同研究計画への拠出金	8	その他	-	-	

国庫債務負担行為等による契約先上位10者リスト

1	ブロック名	契約先	法人番号	業務概要	契約額 (百万円)	契約方式	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (契約額10億円以上)
1		-	-	-	-		-	-	